

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	56		事務事業名 (中事業名)	食育推進事業 ()					
予算科目	06	01	03	大事業	08	中事業	00	担当課名	農林水産課
総合計画施策コード	141			事務開始年度	平成19年度		備考		
根拠法令等	食育基本法						作成月	令和元年7月	

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	市民一人ひとりが食の大切さを理解し、食育を通じて様々な問題に働きかけることができる知識と力を習得し、多様な食育活動を活発化していくことを目的とする。
事業の対象 (誰(何)のために)	市民全般・保育園・幼稚園・学校・地域・企業・生産者等
事業の概要 (具体的に何を)	市内小中学校における食育授業、公募による地産地消料理教室(親子・個人対象)・農業体験、中高校生を対象としたアイデア朝ごはんコンテスト、市内18小学校における米づくり農業体験授業、食育学習用冊子の配布(一般・学校等)、食育推進会議の実施、食育推進計画の策定

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	2,492,031円	2,042,887円	2,050,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.10人	
事業にかかる人件費②	710,461円	716,741円	723,422円	
総事業費③(①+②)	3,202,492円	2,759,628円	2,773,422円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	13,400円	13,000円	28,000円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	759,000円	610,000円	609,000円
	市費	2,430,920円	2,136,628円	2,136,422円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	-442,864円	H30 総事業費③の対前年度比率	-13.83%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	事業費の減額による			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	報償費(各種謝礼)	食育推進会議委員謝礼167,500円、アイデア朝ごはん審査員謝礼35,400円、その他事業講師謝礼220,100円	423,000円	
	委託料	40,000円×7校を西尾市観光協会に食育授業委託料として支払い	280,000円	
	交付金	市内18校農業体験事業に対する交付金	610,000円	

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	各種食育事業、体験授業等の受講者数を増やし、食や地産地消に興味関心を持つ人数の増加。					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	2,000	人	2,000	人	2,000	人
	実績値	1,900	人	2,617	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	各種食育事業、体験授業等の開催					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	23	回	23	回	23	回
	実績値④	23	回	23	回	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)	平成29年度	平成30年度		令和元年度			
	139,239円	119,984円		*****			

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	市内小中学校食育授業・啓発用品作成
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	令和2年度
事業の終了時期が未定の場合の理由	学校の授業の一環として、学校から要望があり実施をしている事業であるため、学校と内容を調整し見直すことは可能であるが、事業を終了することは困難である。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価項目		
	評価	評価	評価	評価	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	◎
	国・県・市・民間との役割は適切か	◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎
	事業に対する市民ニーズを把握しているか	◎		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	◎
有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	◎		受益者負担の割合は適切か	◎
	他市町村と比べて上位に位置しているか	◎		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎

評価の総合的なコメント 食の安全安心が不安とされる中、西尾市民にとって食育を通じて、食の大切さ、西尾の安心安全な食材を理解することができる事業を実施することができている。

事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める
	(理由)	人は健康に生きていく上で、食ることが最も大切である。市民にとって食の大切さ、地域の食材の知識を理解してもらうためにも今以上に内容を充実させ実施をしていく。
民間委託又は市民協働拡大の方向性	一部を観光協会に委託することにより、大きな成果が出ている。今後も事業の内容により考えていきたい。	
事業全体の課題	学校等を通じて、子どもから保護者等へ食育を推進していくことが可能である。しかし学校等の忙しさから、実施できない学校等もあるのが現実である。公募による市民参加も含め、より多くに食育・地産地消を推進していくことが課題である。	

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	他市ではまだ実施していない事業(市内小学校での米づくり農業体験授業・市内小中学校食育授業等)を先進的に実施している。
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	米づくりを通じて、お米の大切さ、農業の苦勞が分かった。給食を残さないようになった。(H30.2月市内小学校での米づくり農業体験授業の児童意見・保護者アンケート)
-----------------	--

●改善案【ACTION】

今後の改善策	現在の事業の良さをもっと多くの学校、市民等を知っていただくための啓発方法を考えていく。また事業のレベルアップを各種団体等と連携をし検討していく。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	食育の啓発を行うことで、無駄な食品を買わない、食品を残さないなどが徹底されると思いますので、引き続き啓発活動を続けてください。
----------	---

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	58		事務事業名 (中事業名)	鳥獣害対策事業 ()					
予算科目	06	02	01	大事業	02	中事業	00	担当課名	農林水産課
総合計画施策コード	523			事務開始年度	H23			備考	
根拠法令等	西尾市鳥獣被害防止計画						作成月	令和元年7月	

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	鳥獣による農作物の被害を軽減する
事業の対象 (誰(何)のために)	各農業部会、地域住民
事業の概要 (具体的に何を)	田畑や果樹園周辺を中心に、市内全域で有害鳥獣(カラス、カワラバト等)の銃による捕獲を実施する

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	721,644円	729,094円	729,094円	
事業にかかる人工	0.05人	0.05人	0.05人	
事業にかかる人件費②	355,231円	358,370円	361,711円	
総事業費③(①+②)	1,076,875円	1,087,464円	1,090,805円	
総事業費の内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	1,076,875円	1,087,464円	1,090,805円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	10,589円	H30 総事業費③の対前年度比率	0.98%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	委託料	労務費、資材費、移動経費、保険料		729,094円

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	農作物の被害額					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	26,120	千円	25,740	千円	25,360	千円
	実績値	23,279	千円	23,269	千円	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	捕獲(駆除)した鳥獣の数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	310	匹	220	匹	220	匹
	実績値④	184	匹	174	匹	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		5,853円		6,250円		*****	

事業の委託状況	全て委託している	委託の内容	捕獲業務
事業の終了時期	10月末	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	
事業の終了時期が未定の場合の理由			

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価項目		
	評価	評価	評価	評価	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	◎
	国・県・市・民間との役割は適切か	◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎
	事業に対する市民ニーズを把握しているか	◎		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	◎
有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	—		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか	—		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント	成果指標の目標値に実績値が届いていない傾向にあるが、業務の性質上定量的な成果は得られないため、現状では最小限のコストで有効な業務を実施できていると判断する。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める			
	(理由)	本業務を委託できる団体は西尾市猟友会を措いて他になく、コストと効果率を鑑みても、現行の体制を維持することが妥当である。			
民間委託又は市民協働拡大の方向性	個人による捕獲箱等での捕獲も許可を得れば可能だが、効果率から考えて現実的ではないため、拡大の可能性は低い。				
事業全体の課題	銃による捕獲では大量で定量的な成果を得ることが困難であるため、有害鳥獣による農作物被害に対して即効性が低く、また抜本的な解決に至ることが難しい。				

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	各市町村で同類の事業を実施。ただし、地域によって生息する鳥獣の種類及び数量、被害の状況などに違いがあるため、具体的な実施作業は市町村によって異なる。
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	地域の畑の作物が、カラスにより荒らされてしまっている。駆除、もしくは威嚇の空砲などで対応してくれないか。(R1.7 某区町内会長来庁により依頼)
-----------------	--

●改善案【ACTION】

今後の改善策	現状では、カラス等により主に甚大な被害を受けている米、梨、柿の農業部会からの捕獲申請書により捕獲作業を実施しているが、個人を除くその他の団体(例えば町内会など)からの依頼にも、臨機応変に対応できる体制を構築する。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	有害鳥獣であるカラスを駆除し、農作物の被害が少しでも軽減できるよう努めてください。
----------	---

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	59		事務事業名 (中事業名)	森林病虫害等防除事業 ()					
予算科目	06	02	01	大事業	04	中事業	00	担当課名	農林水産課
総合計画施策コード	521			事務開始年度	不明			備考	
根拠法令等	愛知県森林病虫害等防除補助事業実施要領						作成月	令和元年7月	

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	地域森林計画対象民有林にある松を森林病虫害（マツクイムシ）から守る
事業の対象 (誰(何)のために)	地域住民、観光客
事業の概要 (具体的に何を)	一色町佐久島と吉良町宮崎にある松林を保護するため6年間のローテーションで松くい虫予防薬剤を樹幹注入する。

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	3,779,852円	2,869,096円	6,989,000円	
事業にかかる人工	0.01人	0.01人	0.01人	
事業にかかる人件費②	71,046円	71,674円	72,342円	
総事業費③(①+②)	3,850,898円	2,940,770円	7,061,342円	
総事業費内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	930,474円	1,354,500円
	県からの支出金	1,531,500円	465,238円	677,250円
	市費	2,319,398円	1,545,058円	5,029,592円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	-910,128円	H30 総事業費③の対前年度比率	-23.63%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	地区により松の大きさや本数が違うため			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	森林病虫害等防除業務委託料	森林病虫害防除樹幹注入業務及び特別伐倒駆除業務	2,836,080円	
	旅費	佐久島渡船代	13,120円	
	消耗品費	番号札、標識テープ	19,896円	

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	松枯れの伐倒駆除本数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	5	本	5	本	5	本
	実績値	1	本	1	本	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	樹幹注入をした松の数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	200	本	200	本	120	本
	実績値④	212	本	205	本	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		18,165円		14,345円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	樹幹注入、伐倒駆除
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	令和2年度
事業の終了時期が未定の場合の理由	森林病虫害防除を終了すれば大規模な松枯れにつながる可能性があるため終了は困難であるが、地区の見直しなど事業実施の選木を行う必要はある		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評 価	評 価 項 目		評 価	評 価 項 目		評 価
	妥 当 性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効 率 性	単位コストは、前年を下回っているか
国・県・市・民間との役割は適切か			◎	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか		◎
変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか			◎	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか		◎
事業に対する市民ニーズを把握しているか			◎	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか		◎
有 効 性	事業の目的は達成できているか		◎	公 平 性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	—
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		—		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		—		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント		森林法第5条内にある松を守るために防除を行って概ね松くい虫による被害は防除できている。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	防除をやめれば松が枯れてしまうため今後も実施が必要である				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	防除の観点では市民協働は考えにくい					
事業全体の課題	森林病虫害以外の要因での枯死もあるため本来の目的である松林を維持するには松くい虫耐性松の植樹により増やすことも考えていく必要がある。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	K市 松くい虫防除事業
---------------	-------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	事業実施場所を検討するとともに植樹も併せて計画していく
--------	-----------------------------

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	松くい虫防除は、効果が見えにくい事業だと思っておりますが、やめてしまうと松枯れが一層進む可能性もあり、引き続き防除をする必要があると思っております。松を保護しながら観光資源として活用するなど、別の視点からの活用も検討してください。
----------	---

西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	60		事務事業名 (中事業名)	あいち森と緑づくり事業 ()					
予算科目	06	02	01	大事業	05	中事業	00	担当課名	農林水産課
総合計画施策コード	521			事務開始年度	H24			備考	
根拠法令等	愛知県あいち森と緑づくり事業交付金交付要綱						作成月	令和元年7月	

事業の概要

●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	森林が持つ環境保全機能や公益的機能を回復するため
事業の対象 (誰(何)のために)	市民
事業の概要 (具体的に何を)	手入れされず荒廃した里山林を管理しやすくするため、あいち森と緑づくり事業(県交付金事業)を活用して、地権者と協定を結び、竹の伐採など森林整備を実施する。

●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	10,899,036円	11,320,560円	10,600,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.10人	
事業にかかる人件費②	710,461円	716,741円	723,422円	
総事業費③(①+②)	11,609,497円	12,037,301円	11,323,422円	
総事業費内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	10,324,476円	9,612,000円	10,000,000円
	市費	1,285,021円	2,425,301円	1,323,422円
その他	0円	0円	0円	
H30 総事業費③の対前年度差額	427,804円	H30 総事業費③の対前年度比率	3.68%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	その他委託料	竹林整備業務委託	9,612,000円	
	その他委託料	残存高木の伐採委託	498,960円	
	その他委託料	枯損木伐採業務	480,600円	

●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	事業に参加した地権者数や問い合わせ人数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	10	人	10	人	10	人
	実績値	15	人	17	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	整備した事業面積 (㎡)					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	30,000	㎡	25,000	㎡	20,000	㎡
	実績値④	27,532	㎡	16,700	㎡	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		422円		721円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【D0】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	森林整備業務
事業の終了時期	令和10年	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	
事業の終了時期が未定の場合の理由			

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評 価	評 価 項 目		評 価	評 価 項 目		評 価
	妥 当 性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効 率 性	単位コストは、前年を下回っているか
国・県・市・民間との役割は適切か			◎	事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか		◎
変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか			◎	委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか		◎
事業に対する市民ニーズを把握しているか			○	事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか		◎
有 効 性	事業の目的は達成できているか		○	公 平 性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	◎
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎		受益者負担の割合は適切か	◎
	他市町村と比べて上位に位置しているか		◎		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○
評価の総合的なコメント		地権者からの希望により事業を実施しているため効率的な整備に至っていない。市全体の現況を把握し計画的な実施が必要となる。				
事業の方向性	(評価)	2 今後は、内容を見直して事業を拡大する				
	(理由)	市民からの要望が多い竹林整備事業を今後も計画的に実施していくため				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	継続的な維持管理には市民との協働が必要である					
事業全体の課題	あいち森と緑づくり事業での竹林整備は廃止されたため今後は森林環境譲与税を活用した市の事業として実施する必要がある					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	H29 県下3市（西尾市を除く）
---------------	------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	提案型里山林整備事業を希望する地域に対しては事業を実施し、竹林整備については森林環境整備事業として実施していく
--------	---

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	荒廃した里山林を解消することは難しいと思いますが、少しでもそういった土地が減るように、効果的で公平性のある事業を実施してください。
----------	---